

中央公民館だより

平成 27 年 3 月 1 日発行
三原市中央公民館
三原市円一町 2 丁目 3 番 1 号
TEL 0848-64-2137 FAX 64-0137

あなたが主役の “まちづくり” ～尾三地区公民館連合会研修会より～

去る 2 月 10 日、本郷生涯学習センターにおいて、尾三地区（尾道・三原・世羅・竹原・大崎上島）の公民館関係者を対象とした、研修会が開催されました。約 80 名が参加、講演や事例発表に熱心に耳を傾けました。

各自治体が抱えている人口問題、とりわけ少子高齢化に関わっては、益々深刻化していくものと思われます。総務省統計局公表の日本の人口は、1 月 1 日現在、概算値で 1 億 2702 万人ですが、今後、減少傾向が進んで 2048 年には 1 億人を割り、2060 年には 8,600 万人台になると推計されています。また、65 歳以上の高齢人口と 20～64 歳の現役世代の人口比をみても、1 人の高齢者に対して、1950 年には 10 人の現役世代がいたのに対し、2010 年には 2.6 人。今後、高齢化率はさらに上昇し、2060 年には、1.2 人になるという驚愕の数値が発表されています。

これに関わり、様々な社会問題が顕在化…年金・医療・介護等身近な問題から、過疎地の増大や地方都市の荒廃といった社会構造の変化に至るまで…それどころか社会保障の維持や雇用の確保が困難となり、今後自治体そのものが消滅する可能性も懸念されています。

このような状況に直面し、公民館等に求められる使命も、単に地域の学習拠点にとどまらず、人づくり・まちづくりの拠点としての機能の充実など、以前にも増して大きくなってきています。

研修では、滋賀大学の横山幸司准教授をお迎えし、『人づくり まちづくり 絆づくり』と題してご講演いただきました。地域活性化のための基本的な考え方や手法について、ご自身の豊富な経験に基づく示唆に富んだ説得力のあるご提言をいただきました。さらに、忠海東公民館の事例発表では、子どもたちを核として多世代が集い、忍者に扮して自分たちの地域の歴史を学んだり特色を探したりする活動が報告されました。目の前に視界が開けてきたような気がします。



☆横山准教授の提言『これからの公民館に期待されること』

- ① 市民自治・地域自治への寄与
- ② 経済界との連携、産業や観光などの地域振興への寄与
- ③ 地域学のすすめ（※地域を素材とした地域の特性について学ぶこと）
- ④ 地方創生の拠点

体験講座ってなあに？

中央公民館では、年間を通して学ぶ連続講座に加え、1 回で完結する体験講座を、月平均 2～3 講座開催しています。ジャンルは趣味・教養・料理・健康・子育て・文化・芸術・語学・福祉・環境と多種多様です。各種講座開催後に講座にご参加いただいた方にアンケートをとり、皆様の“学びたい”“知りたい”“やってみたい”を次回開催講座へ反映しています。体験講座がきっかけで、自主活動グループへ発展していくケースもあります。主体的な学びや活動を通して、仲間づくりやつながりが生まれ、生き甲斐や日常への楽しみとなるきっかけ作りを目的にしています。体験講座が盛況で、継続的に学びたいという受講者がたくさんおられる場合には、次年度の連続講座に立ち上がることもあります。

ご自身のオンリーワンを探しに、またやる気スイッチを探しに、是非、多くの皆様の体験講座へのご参加をお待ちしております。次年度も、皆様のアンテナがピクン！と動くような、魅力ある講座を企画していきます。



親子ストレッチ

親子ストレッチでは同時に子育て井戸端トークを開催しています。他課での子育てに関する情報（ファミリーサポート・子育て支援等）をお知らせしたりしています。子育てに関する情報交換の場にお役立て下さい。



夏休み子ども工作



トピアリー講座



カルトナーージュ講座

ますます三原が
気になる 好きになる 放っておけなくなる

マナビくんの
情熱講座



平成 27 年度中央公民館新規講座 「三原学」事始め

2年後の三原市は築城 450 年を迎えます。それに向けて市では様々な催しが計画されるようですが、中央公民館では、新たに標記の地域学講座を次の要領で開講いたします。三原に関するあらゆる分野の特筆すべき事物・事例を広く分かりやすく解説し、市民の皆様地域性について学んでいただき、郷土三原への愛着を深めていただくためです。また、今盛んに地方都市の再生が叫ばれる中、“人づくり”や“まちづくり”への橋渡しをするためでもあります。関心がおありの方は、『広報みはら』3月号の募集案内を参照し、是非ご応募ください。

- ☆開催日時 原則第3土曜日 10:00～12:00
(多少変更になる場合があります。)
- ☆開催場所 中央公民館第1研修室及び各現地
- ☆申込受付 3月1日発行『広報みはら』に募集案内掲載後、往復はがきで
3月18日必着(申込み多数の場合は抽選)
- ☆募集定員 25人(大人) ※全講座受講可能な方
- ☆受講料 年間1,500円
- ☆連絡先 三原市中央公民館 (0848) 64-2137



	開催日	テーマ	内 容
1	5月16日(土)	三原の古代文化	原始・古代の遺跡や出土遺物と古代人の暮らしについての解説
2	6月20日(土)	植物に親しむ集い1	原始の姿をとどめる御調八幡宮の社叢林の植物の観察
3	7月18日(土)	三原名物“やっさ踊り”	三原の夏の風物詩“やっさ踊り”の移り変わりの解説
4	9月19日(土)	沼田地域の古墳	沼田地域の主要な古墳についての現地解説
5	10月17日(土)	植物に親しむ集い2	特色ある賀茂台地、樓真寺周辺の植物の観察
6	11月21日(土)	名醸 三原酒1	将軍家や日光の献上酒として珍重された三原酒の歴史の解説
7	12月19日(土)	名醸 三原酒2	『名醸 三原酒1』の講座を踏まえ、造酒屋ゆかりの東町の散策
8	1月16日(土)	神武鉦山	鉦物の種類の豊富な神武鉦山の解説と現地見学
9	1月23日(土)	沼田川の野鳥	北極圏から三原にやって来る渡り鳥の観察
10	2月20日(土)	三原の文芸	三原ゆかりの作家の紹介と三原に関する記述の紹介

編集後記

私の幼い頃、ご近所に素晴らしい人がおられました。自宅を開放し、今でいうサロンのような…いつも学びを請う人達が入り出していました。書・短歌・和歌・詩吟・囲碁・漢詩、など博識で教養にあふれる魅力ある人でした。戦争で異国にすべてを捨てて帰国したが、知識と心は失わなかったとおっしゃり、悠久の世界観を心にもった隠居の身の方でした。父は詩吟と囲碁を習いに行っていました。私も可愛がってくださり、よくひざに私を乗せて様々なことを話してくださいました。

今でも覚えている話があります。「八千年の椿」の話です。これは病床に伏した武田信玄公が孫（勝頼の子）に語り聴かせたという話です。その時は、何を教えてくださっているのかわからないままでしたが、最近になって、莊子の一節であると気が付きました。「上古大椿なるもの有り 八千歳を以て春と為し 八千歳を以て秋と為す」=八千年を春とし、八千年を秋とし、三万二千年が人間の一年に相当するほど長く生きる大椿。信玄公は孫にこう諭したといひます。「人の人生は短い、驕ることなかれ」と。

このお話をひざの上で、「昔、昔、その昔、明の国に大きな大きな椿がござったそうじゃ！その大きなこと、天にいたるほどでござった。」と語られるのを聞きしました。幼い頃のことは、断片的にでも、心に響いたことは覚えているものだと感じました。心豊かに生きることを教えていただいたと、今でも感謝です。昨年空へ還った命（父）と、先月空からやってきた命（孫）を重ね想い、思い出した一節を書いてみました。（K）